

三島市の文化振興

アナ： 「市長が語る 2017 三島」第 6 回の今日は、「三島市の文化振興」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 始めに、平成 29 年度から三島市での文化振興施策の位置づけが変わったとのことですが、どのように変わったのでしょうか。

市長： 平成28年度までは、三島市の文化振興施策は、教育委員会の中にある文化振興課が全般的に担当してまいりましたが、平成29年度を迎えるにあたり、戦略的なまちづくりを行うため、市の体制を改編いたしました。その中で、これまでの文化振興課が所管していた事務のうち、文化財の保護と郷土資料館に関することを所管する部署として「郷土文化財室」を新たに教育委員会の中に設置するとともに、その他の文化振興施策に関することを教育委員会から市長部局に所管替えし「産業文化部文化振興課」として推進していくことといたしました。

アナ： 文化振興課が産業文化部と教育委員会に分かれたということですね。文化振興施策を産業文化部で行うことで、何が変わるのでしょうか。

市長： これまで文化をテーマとしたまちづくりは、教育委員会と、都市計画や産業部門などを所管する市長部局でそれぞれに実施していました。平成29年度からは市長部局内に設置した「産業文化部」におきまして、文化振興施策を地域活性化や観光などのまちづくり施策と結び付け、一体として実施することにより「文化によるまちづくり・人づくり」を推進していきます。

例えば、三島市が立ち上げた「三島市スポーツ・文化コミッション」ではイベントや大会の誘致などを推進していますが、スポーツ大会等の誘致に限らず、文化的なイベントや大会についても積極的に誘致していきたいと考えております。

アナ： なるほど、「文化によるまちづくり・人づくり」を、市長の指示で地域活性化や観光などのまちづくりと一体で進めていくということですね。

そのほかには、これから、こういった取り組みをされるのでしょうか。

市長： 昨年 3 月、「三島市文化振興基本計画」を策定し、「文化の種をまこう、文化の庭をつくろう、文化の花をさかそう」を合言葉に、「創造力あふれる人とまち・みしま」を目指して文化振興施策を推進しています。今後さらに三島が発展していくために、平成 28 年度から、子どもを対象とする人材育成や市民の文化活動を活性化するプロジェクトを展開する「クリエイティブシティ推進事業」を重点プロジェクトとして、本格的に進めているところです。

その一環といたしまして、昨年も多くの市民の皆さんに参加していただいた、市民登録参加型の文化フェスティバル「みしまの文化百花繚乱」を今年度も実施

することといたしました。9月から11月までの3か月、三島のまち全体を舞台に見立て各種イベントを開催してまいります。

また、三島の文化の土壌を培ってきた、美術展、合唱祭、芸術祭、演劇祭、文芸三島の発行などの事業を今年度も引き続き実施するとともに、佐野美術館特別展の共催や、多くの刀剣女子が三島を訪れるきっかけとなった「刀剣乱舞-ONLINE-コラボ企画」など、多種多様な文化振興事業を実施してまいります。

アナ： 文化振興課が産業文化部に改編されたことを機会に、より一層文化活動が活発になることが期待されますね。

市長： コンサートや展覧会、ワークショップや講演会など、ジャンルも内容も様々な催しが盛り沢山ですので、「文化は敷居が高い」などとは思わずに、ぜひ気軽にお出掛けいただきたいと思います。

「参加する」という市民の皆さん一人ひとりの活動が、まちの文化力を高めていきます。文化の薫り高いまちは人々の注目を集めます。皆さんのすぐ足元に埋まっている文化の花の種を、皆さんと一緒に大切に育てていきたいと思っています。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。